

二〇一九年度入学試験問題

国

語

(五〇分)

第二回 二月二日実施

〔注意〕 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
問題用紙も提出しなさい。

吉祥女子中学校

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。字数指定のあるものは、句読点やかつこもすべて一字に数えます。なお、問題の都合上、もとの文章から一部省略した部分があります。

X
目に見えない、あるいは手に触れることのできない抽象的な概念を指すことばの意味——例えば「愛」とか「敬意」といったことばの意味——を、子どもはどのように理解することができのでしょうか。ここでふたたび、ヘレン・ケラーに登場してもらいましょう。ヘレンは、自叙伝（『奇跡の人　ヘレン・ケラー自伝』）の中で「愛」ということばの意味を理解した時のことを述べています。

ある朝、サリバン先生は「ヘレンのことを愛しているわ」と綴りました。ヘレンは「愛って何？」と尋ねます。サリバン先生はヘレンを引き寄せ、彼女の胸を指さして言いました。

「ここにあるわ」

①
しかし、ヘレンはこの答えにひどく戸惑いました。「愛って、花のいい香りのこと？」「太陽の暖かい日差しのこと？」ヘレンは次々に聞いていきますが、サリバン先生は首を振り続けます。なぜ、サリバン先生は「愛」を具体的に示してくれないのだろう、とヘレンはがっかりしながら考えていました。ヘレンは、この時にはまだ、手に触れられない、抽象的なものも名前を持ち、ことばで表現できるのだということを知らなかつたのです。

ヘレンは、**A**、「愛」の意味を考え続けました。サリバン先生は指文字を綴って説明します。「雲にさわることはできないでしょう？　それでも雨が降ってくるのはわかるし、暑い日には、花も乾いた大地も雨を喜んでるのがわかるでしょう？　それと愛

注　*概念……事物についてのとらえ方や考え方。

*指文字……手のひらに文字を綴ってことばを伝える伝え方。

は同じなのよ。愛も手で触れることはできません。だけど、愛が注がれる時のやさしさを感じることはできます。愛があるから、喜びが湧いてくるし、遊びたい気持ちも起きるのよ」

ヘレンは書いています。「その瞬間、美しい真理が、私の脳裏にひらめいた——私の心とほかの人の心は、見えない糸で結ばれているのだ、と」。ヘレンは「愛」ということばを一生懸命考え、理解したことで、言語は、抽象的な概念にも名前をつけることができるのだということを知りました。これは、「モノには名前があり、ことばはモノの名前だ」という洞察に次ぐ、第二の洞察を彼女に与えたはずです。ことばは、直接経験できるモノに名前を与えるだけではありません。目に見えない抽象的な概念に名前を与えることは、^③直接的な感覚経験を超えた抽象的な思考に子どもを導いてくれるのです。

抽象的なことばの意味の理解を可能にするのもまた、ことばです。みなさんも、知らないことばがあったら辞書を引きますよね。辞書はあることばを別のことばで記述しています。説明に使っていることばをすでに知っていて、説明が理解できれば、直接それを見たり、触ったりする経験をしなくても（あるいは直接的な感覚経験ができない抽象概念の名前でも）、新しいことばを知ることができるわけです。ことばのストック（つまり語彙）がほとんどない小さい赤ちゃんは、ことばによって新しいことばの意味を学習することはできません。でも、ことばのストックがある程度できてくれば、すでに知っていることばを使って新しいことばを学習していくことができます。すでに学んだことばによって未だ知らなかったことばをどんどん新たに学習し、新しい概念を身につけていくことができる。^④ことばを学習するということは、思考の強力な武器を手に入れることにはなりません。

ヘレンは「愛」ということばの意味を理解する前に、愛という気持ちを持っていなかったわけではもちろんありません。もともと「愛する」という気持ちがあるというものがまったく理解できなければ、いくらことばで説明されても、^⑤字面は理解できても、「ほんとうの意味」はわかるはずがありません。「愛とはなんですか？」と聞かれたら「愛とは○○です」という定義を返すことができるようにロボットをプログラムすることは可能です。でも、定義を返せるということと、「愛」の意味がわかることは違います。愛と

いう気持ちを自分で少しでも経験したことがなければ「愛」ということばの意味はわかりません。

B、もともと「愛する」気持ちを持っていたら、その気持ちに「愛する」ということばを単純に貼りつけられれば「愛する」ということばの意味を理解することができるようでしょうか。前にも述べましたが、言語獲得の理論では、長い間そのような考えが広く受け入れられていました。ことばの意味を獲得するということは、子どもがすでに持っている整理済みの概念にラベルを貼りつけていく作業だと考えられていたのです。

C 子どものことばの使い方の発達変化を丁寧に見ていくと、その考えは正しくないことがわかります。例えば「愛」ということば。子どもは、このことばを教えられ、その意味を考えることによって、今まで整理されていなかった、漠然とした気持ちが何なのかということを考えるようになり、「愛」という概念に対しての理解を深めることができるのです。

子どもは（大人もですが）絶えず、ことばの意味を、そのことばではない別のことばと対比して考えます。例えば、「愛」は「好き」とどう違うのでしょうか。「愛」と「喜び」はどう違うのでしょうか。ヘレンは「愛」ということばが「理解できた」と言っています。でも、「好き」や「喜び」などの、「愛」と深く関係することばを学び、それらと「愛」がどのように違うのかを理解するまでは、「愛」ということばの意味をほんとうに理解したとはいえません。あることばの意味をほんとうに理解するためには、そのことばと関連することばとどのように区別されるのかがはっきりわかる必要があります。

「愛」や「喜び」などの目に見えない概念を表すことばもまた、語彙という意味のシステムの一部です。「愛」ということばの意味は、「好き」や「喜び」「友情」「親しみ」「楽しさ」などの気持ちを表現することばとの関係性で決まります。これらのことばを学ぶことによって、それまで漠然として未分化だった概念が、より明確になり、整理されるのです。

注 *洞察……見ぬくこと。

*ストック……貯めておくもの。

*ラベル……名前を記した貼り紙。

*システム……全体的なまとまり。

このようにして、子どもは目に見えない、手に取ることもできない抽象的な概念のことは学び、ことばを学ぶことによってこれらの抽象概念をシステムの中で理解し、自分の一部にしていきます。それを可能にしているのはことばです。目に見えるモノや行為こういに対応づけて覚えた基本的なことばが、抽象的な概念を理解し、その名前を学習することを可能にしているのです。

(今井むつみ『ことばの発達の謎を解く』)

問一

A C

にあてはまる言葉の組み合わせとしてもっとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 A さらに B では C しかし
- 2 A また B しかし C したがって
- 3 A ところが B そして C つまり
- 4 A そのうえ B あるいは C だから

問二

線①「この答えにひどく戸惑とまどいました」とありますが、それはなぜですか。もっとも適当なものを次の1～4から一つ選

び、番号で答えなさい。

1 サリバン先生なら「愛」ということばの意味をうまく説明できると思っていたのに、先生でも具体的に示すことはできないのだと知って、がっかりしたから。

2 サリバン先生自身は「愛」ということばの意味を具体的に知っているのに、まだ子どもであるヘレンには教えてくれないのだとわかり、残念に思ったから。

3 サリバン先生なら「愛」ということばの意味をわかりやすく教えてくれると期待したのに、先生の答えは具体的ではなく、どのような意味かはわからなかったから。

4 サリバン先生はいつもことばの意味を具体的に教えてくれるのに、「愛」ということばだけは答えをはぐらかそうとするので、どうしたらいいか困ってしまったから。

問三 —— 線②「第二の洞察」とありますが、「第二の洞察」の対象になると思われる言葉を次の1～6からすべて選び、番号で答えなさい。

- 1 赤いりんご
- 2 自分の人生
- 3 駅前の道
- 4 消しゴム
- 5 桜の花
- 6 美しい風景

問四 —— 線③「直接的な感覚経験を越えた抽象的な思考に子どもを導いてくれる」とはどういうことですか。もっとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 心の中にすでに持っている気持ちにただ名前を付けていくだけの、単純な思考にばかりにおちいってしまうこと。
- 2 もともと知っていることばを使って新しいことばをさらに学習していくという、確かな思考能力を体得していくこと。
- 3 目には見えないものでも心で感じることはできることに気づき、自分なりの新しい思考の方法を見つけていくこと。
- 4 実際に見たり触れたりできるものだけでなく、説明するのがむずかしい概念をも思考する能力が身につくこと。

問五 —— 線④ 「ことばを学習するということは、思考の強力な武器を手に入れること」について、次の問いに答えなさい。

(1) 「武器」とはどのような意味ですか。もつとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 最適な方法 2 特殊な技術
3 有力な手段 4 秘密の工程

(2) なぜ「思考の強力な武器を手に入れること」になるのですか。もつとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

1 すでに知っていることばによって、これまでは知らなかった新しいことばを説明するという作業の繰り返しくが知能を高めていくから。

2 ことばの学習は新しいことばをつぎつぎと知ることにつながり、その結果、より難しい考えがどんどん理解できるようになるから。

3 ことばを学習すれば知識が豊富になっていくので、実際に見たり触れたりできないようなどんなことでも知ることができるから。

4 抽象的なことばの意味を理解して人にも説明できるようになれば、そのことばへの理解が自分の中でより一層深まっていくから。

問六 —— 線⑤ 「定義を返せるということと、「愛」の意味がわかることは違います」とありますが、そのちがいは何によるもので

すか。二十字以上三十字以内で答えなさい。

問九 〓線Y 「愛」は「好き」とどう違うのでしょうか？ 「愛」と「喜び」はどう違うのでしょうか？」とありますが、「愛」と

「好き」、「愛」と「喜び」のように、似ているがちがいのある二つのことばを自分で探して、その二つのことばの似ている点とちがう点について、次の解答例のように八十字以上九十字以内で説明しなさい。

解答例 「怒る」と「叱る」

どちらも厳しい表情で話す点では似ているが、「怒る」は自分の怒りや憤りの気持ち（きもち）をただ感情的に相手にぶつけているのに対して、「叱る」は相手のためを思って注意しているという点でちがう。（八十九字）

二

次の文章は戦時中の高等女学校の生徒たちの日常生活を描いたものです。この文章を読んで、後の問いに答えなさい。字数指
定のあるものは、句読点やかっこもすべて一字に数えます。なお、問題の都合上、もとの文章から一部省略した部分があります。
漢字や送りがなについてはもとの文章の通りにしてあります。

夏がいつのまにか、長けていこうとしている。ブラウスを縫い始めてから、十日近くが経っていた。学校から帰ると許される限り
集まって、針を動かしていたが、なかなか前に進まない。軍事教練の時間が増えた分、帰宅が遅くなり四人が揃うのはなかなか難し
くなっていた。

でもいいのだ。その分、集まった時の楽しさが何倍にもなる。

「あつ、痛っ」

詠子が小さく叫び、指を口に含んだ。

「やっちゃった?」

和美が詠子の口元に目をやる。

「うん。針でつつついてしもうたわ」

詠子がふっとため息を吐く。

「うち、ほんま不器用やわ。特にお針は下手で、自分でも嫌になる」

「ええやん。詠子には足があるんやから」

すかさず則子が口を挟む。詠子に顔を向け、蜜柑色の布からすつと糸を引き抜いた。

①「韋駄天の詠子がお針まで上手だったら、うちら立つ瀬がないわ、な、三芙美」

則子の視線がわたしに移る。

高揚しているのか目の縁がうっすらと紅い。きつと、わたしも同じように目元を染めているのだろう。

一枚の布を裁ち、縫い合わせていく。

一枚の布を一枚のブラウスに仕立てていく。

それが、こんなにも心弾むことだったなんて、知らなかった。いや、知っていた。ちゃんと知っていた。知らないふり、忘れたふりをしていただけだ。

わたしたちは、わたしと則子は特に裁縫が好きで、小さいときからよく、お針を使った。

端切れを縫い合わせて、小さな手提げ袋を作ったり、母親の割烹着の裾を刺繍の花で飾ったり。

授業でも裁縫の時間が一番、好きだった。尋常小学校のとき、裁縫の担当の黒江先生がおしゃれで、いつもすてきな洋服を召していらつしやったこと、そのほとんどが先生の手縫いの物だと聞いたことも、わたしたちの裁縫好きに拍車をかけた。

黒江先生は、背もそんなに高くないし、どちらかと言えばぼつちやりとした体型の方だ。でも、白いブラウスの襟元に季節に合わせた花飾り（春なら桜、冬なら椿というように）をつけたり、柔らかいのにびつと引き締まる色合いのセーター（例えば濃淡のある青とか、黒の地に桃色の模様が入っていたりとか）を何気なく着こなしていたりと、ほんとうに、洋服のセンスが粋だった。セーターもブラウスもブラウスの花飾りまで、先生の手作りだと知ったとき、わたしは感嘆の声をあげたものだ。

もつともつと、お針が上手になりたい。先生のように自分のお気に入りの服を自分の手で縫い上げて、人前に着て出られるようになりたい。

あのころはまだ、^{*}衣料切符なんてものではなく、なんとか布を手に入れることができた。たいていは、家族の古いワンピースやブラ

注 *軍事教練……戦争中、学校で行われた軍事に関する訓練。

*韋駄天……非常に足の速い人。

*衣料切符……戦中から戦後にかけて行われた配給制度のもとで、衣料分配のために発行された紙片。

ウスをほどいて仕立て直すのだけれど、時に、真新しい布を母が買ってくれることもあった（山口洋装店で、だ。黒江先生も時折、山口洋装店で布や毛糸を買い求められたそうだ）。

そういうときは本当に、この世界が薔薇色に染まって見えた。この先、どれほどすてきなことが、楽しいことが、すばらしいことが待っているだろうと、胸が高鳴り、わたしはちよつと涙ぐんだりもしたのだ。

今、あのときの何倍もの強さで胸はときめいている。もう二度と手にすることは叶わないと諦めていた、新しい、美しい、一枚の布にわたしは針を通してているのだ。

ほんと、夢みたい。

このところ、裁縫の時間は慰問袋や慰問袋に入れる人形作りばかりで、少しつまらなく思っていた。

思う度に、わたしはわたしの膝を指先でつねった。

我が大日本帝国を盟主としてアジア諸民族の共存共栄をはかり、かの地を植民地としている鬼畜米英を打ち破るために、遠き戦地で戦っている兵士のみなさんに、あまりに申し訳ない、あまりに自分勝手な思いだからだ。

この国の銃後として決して持つてはならない想いでもある。

わたしは、わたしを戒めるために膝をつねる。

こんなに痛いのに、こんなに自分を恥じているのに、想いはじわりじわりと滲み出てしまう。

むろん顔にも口にも出さなければ、わたしが不埒な想いを抱いていることは、わたし自身にはわかっているのだ。

自分だけはごまかせない。

③ 頭で心を抑えつけるのは無理なのだ。

自分の着る物——それがブラウスでも、セーターでも、前掛け一つでも——を作り上げていくことって、自分を知っていくことだ。わたしにはどんな色、どんな襟、どんな袖が似合うだろう。わたしは、どんな色のどんな形の洋服を着たいのだろう。わたしは、

どんな色が好きでどんな洋服が好きなのだろう。

わたしは、どんな……女の子で、人間なんだろう。

お針を使いながら、わたしはさまざまに思いを巡らせる。わたしについてあれこれをとりとめもなく考える。考えて、答えがでるものではない。でも考えてしまう。たぶん、答えを求めているわけではないのだろう。

お針を動かしながら、とりとめのない思いに耽る。耽りながら、自分のために針を動かす。

「則子。相変わらず上手やねえ」

詠子がため息を吐いた。

「ほんまやわ。手が全然、ちがうもんな」

和美も則子の手元を覗き込み、形の良い目を見開いた。則子の頬がほんのりと色づく。その頬は、

「則子はお針の天才やからね」

わたしの言葉にさらに赤くなった。

則子はお針の天才だ。

小さいときから、それは見事に針を使った。

あれは幾ついくのときだったろう。七つか八つか、まだ十にはなっていないかっと思つた。

則子と人形の洋服を縫ったことがある。母が古くなった長襦袢ながじゆばんをくれたので、それをほどこき、ドレスを仕立てようとしたのだ。

わたしも則子も、セルロイドの着せ替え人形かかを持っていた。則子の方がやや大きかったけれど、どちらも金髪碧眼きんぱつ、きがんのかわいい人形

注

*慰問袋……出征兵士しゅつせいへいしを慰めるために、中に娯楽品ごらくひんや日用品などを入れて贈る袋。

*銃後……直接戦闘せきじやくせんとうに加わらない一般国民。

*不埒……けしからぬこと。

*碧眼……あおい色の目。

だった。人形に白いドレスを作ってあげたかった。でも、まだ小さなわたしたちに手の込んだものは無理だ。だから、簡単服を作ることにしたのだ。でも仕立糸が紅色べにいろしかなかった。わたしは少し落胆らくたんし、少し焦あせった。

「紅糸しか、ないね。則ちゃん」

「うん」

「どうしよう」

「ええよ。別に、この糸で」

⑤ 則子はこともなげに言うのと、紅糸を針に通した。そして、ゆっくりと裾の折り返し部分を縫い始めた。

紅い点が等間隔とうかんかくにぼつぼつと並ぶ。ミシン縫いのように、真まつ直すぐな糸目だった。

それを目にした瞬間しゅんかん、閃ひらめいた。

「則ちゃん、糸を二本にしてみっと糸目を見せてや」

「え？ 見せんの」

「そうや。きつと、きれいな裾の模様になるで」

「あっ、そうか。模様か」

則子は手早く、糸を二重にする。今度はわざと紅糸を表に出して縫う。縫い目は長くなっただけけれど、やはり測ったように一分いちぶの歪ゆがみもなく並んだ。

襟元にも同じように縫い目をつけ、紅いリボンを腰こしのあたりに縫い付けた。できあがったドレスを人形に着せてみると、なかなかしやれていて、わたしたちはその出来栄でき栄えに、心底、満足したものだ。則子は、

「やっぱり、三美美ちゃんってすごいねえ。模様のこととか、ばって思いつくんやもんね」

と、本気で感心してくれたけれど、わたしの思いつきより、則子の針の方がずっと見事だった。白い布を紅い糸できつちり等間隔

に縫う。則子だから、それができるのだ。たった、七、八歳さいで。

布自体が古かったので、せつかくのドレスはすぐに色あせて、解ほれてしまったし、人形そのものも、外見が憎にくき米英の人種にあまりに似通っていたから、敵性品として処分されてしまった。正直に言うと、ちよつぱり……かなり残念だった。

「則子、袖のところだけ手伝ってくれる」

和美が身体を則子の方に回した。

「ええよ」

「ありがとう。助かった。ギャザーのところがないの。きれいにギャザーを作らんと、せつかくのデザインがだいなしやもんな」
「あつ、それなら、うちのも手伝って」

詠子が手を合わせる。

「タツクが、うちには難しいと思うんよな。せつかくの布でせつかくの三美のデザインなのに、うちが下手なことしたら、ほんま、もつたいのうて泣くに泣けへんし」

「そうよなあ」

詠子と和美がうなずき合う。このごろわたしたちの間では、デザインデザインの一言が流行はやりだ。みんな、舌⑥の先で味わうようにそつと発音する。

「こら、二人とも」

わたしは、わざといかめしい顔つきで二人を睨にらみつけた。

「他人に頼たよっちゃ、あかんでしょ。ブラウス一枚、縫ぬいえんなんで、それこそ嘉陽高女*かようこうじょの名前が泣くで」

注 *敵性品……敵国の性質・特色を持つ品物。

*嘉陽高女……高等女学校の名前。小学校卒業後に女子が進学する四年制の学校。

「泣いたかて、構わんよ」

詠子^⑦がにべもなく言い放つ。

「嘉陽高女の名前より、このブラウスの方が十倍も大切なもの。なつ、和美」

「うん。百倍ぐらい大事やね。もっと言うなら。お国より大事や」

「まあ、あなたたちは、この非常時になんてことを言うのですか。困った人たちですなえ。校長先生のお耳に入ったら、大変なことになりますよ」

則子が出雲先生の物真似^{ものまね}をする。

突然^{とつぜん}に、しかも出雲先生にそっくりだったものだから、私も詠子も和美も、我慢^{がまん}できなかつた。

その場に笑い転^{ころ}げる。声を押し殺^おしながら、それでも心底から笑う。

楽しい。

幸せだ。

こんなに幸せで、いいんだろうか。

「うちなあ、^{*}高等師範^{しはん}、受^うけたいんよ」

則子がすつと糸を引きながら言った。

「うん、知^ちってるよ」

わたしは答えた。則子の顔が上がる。

「知^ちってた？」

「うん、則子^のずつと、先生になりたかつたんやろ。うち、わかつたで」

則子^だったら、良い先生になるだろう。決して生徒を見下^やさない優しい女先生に。

A「やっぱ、気付いてたのか」

B「そりゃあわかるよ。長い付き合いやもの」

わたしはにやりと笑ってみせた。

「うちも師範、受けるつもり」

詠子がほそりと眩つぶやいた。

「ええっ！」

わたしと則子の声が重なる。

「なんやの、その驚おどろき方は。則子の時は納得してたくせに」

「いや、けど……詠子が先生って……、思うてもいなかったわ」

わたしは正直に答えた。詠子は太陽の娘こだ。燦々さんさんと降り注ぐ陽光こそが似つかわしい。教室で教鞭きょうべんをとっている姿がどうにも思い

浮かばないのだ。則子ならびたりとくるのだが。

「うち、体育の教師になりたいんや。ずっとなりたかったんよ。教練や武術じゃなくて、ほんとうの運動を教えるの」

「体育の女の先生か……」

それなら、胸に落ちる。詠子にはびったりだ。

「和美は詠子の気持ち知ったの？」

則子が問う。和美は笑みながらうなずいた。

「知ったよ、**X** やからねえ」

注 *高等師範……教師になるための学校。師範は小学校の先生になるための学校で、高等師範は高等女学校など上級の学校の先生になるための学校。

それから、ふーと息を吐き出す。

〔C〕「みんな、将来のことちゃんと決められて、すごいねえ。うちはまだ……ようわからん。何になりたいんかわからんのよなあ」

「女優さんになったら」

わたしは身を乗り出した。

「和美は美人やから、きつとスターになれるで」

「まさか」

和美が笑う。わたしはさらに身を乗り出した。

「いや、和美、絶対それがええわ。和美がスターになったら衣装はうちにデザインさせて。和美が一番きれに見える衣装を作るから」

和美は笑みをひっこめ、わたしを見詰めた。

「三美のデザインしたお洋服か……ええねえ」

「なあ、和美、共演相手は誰がええ。やっぱり藤田進かな」

「則子、それはあんまり気が早すぎるわ」

それから、わたしたちは映画スターの品定めを始め、やがて「暖流」の高峰三枝子の衣装へと移っていった。それから、次第に黙り込み、せつせと針を動かした。わたしは考える。則子と詠子が教師となった日々を心を通わせてみる。そのころにはきつと、この戦いも終わっているだろう。則子も詠子も、生徒たちとずっと一緒に勉強できる。教え、笑い、心を通わすことができる。

うん、びったりだ。

二人は、自分にぴったりの道を歩もうとしている。わたしも、和美も……。

「三美美、襟ぐりはもう少し広い方がええかな。うち、首が太いし、あんまり窮屈やと、かわいい感じがせえへんよね」

則子が尋ねてくる。

蜜柑色の布は、既にブラウスの形になっていた。

不意に胸が苦しくなる。とくとくと心臓の鼓動が手のひらに伝わってくる。

苦しいけれど嬉しい。嬉し過ぎて苦しい。

⑧ 胸の鼓動は動悸ではなく、ときめきだ。

わたしのデザインが、現実のものになろうとしている。現実のブラウスとして生まれようとしている。

ああ、ときどきする。

生きていてよかった、生まれてきてよかった。

そんな思いが、身体の奥から突き上げてくる。

(あさのあつこ『花や咲く咲く』)

問一 ～～～線㉞「粹」・～～～線㉟「品定め」とはどのような意味ですか。もつとも適当なものを次の1～4からそれぞれ一つ選び、番号で答えなさい。

㉞「粹」

- 1 洗練されていること。
- 2 流行に乗っていること。
- 3 派手で人目を引くこと。
- 4 個性があらわれていること。

㉟「品定め」

- 1 あれこれうわさすること。
- 2 好き嫌いを言い合うこと。
- 3 魅力を語り合うこと。
- 4 優劣を批評すること。

問二 ——線㊱「うちら立つ瀬がない」とはどういうことですか。もつとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 足の速い詠子がお裁縫まで上手ということになれば、平凡な自分たちはもうどうやっても敵わないということ。
- 2 運動が得意な詠子だが家庭科は苦手なので、とくに得意分野のない自分たちもねたまずにすむということ。
- 3 文武両道な詠子が洋裁までできてしまったため、これまで以上に自分たちの不器用が際立ってしまったということ。
- 4 俊足の詠子もし手先まで器用だったら、特別な取り柄もない自分たちの立場がなくなってしまうということ。

問三 —— 線②「知らないふり、忘れたふりをしていた」とありますが、そのような「ふり」をしたのはなぜですか。もっとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 戦争中にもかかわらずブラウスを縫ったりして、戦争以外のことを考えようとしている自分に罪悪感を覚えたから。
- 2 戦況が悪化するなか、ひそかにブラウスを縫っていることに言いしれぬ高揚感を覚える自分が誇らしかったから。
- 3 戦争を忘れてブラウスを縫っている自分の心が、すっかりゆるんでしまっていることを認めるのがこわかったから。
- 4 四人が揃う時間がなかなかとれないからこそ、こうしてブラウスを縫っているときだけは戦争を忘れたかったから。

問四 —— 線③「頭で心を抑えつける」とはどういうことですか。もっとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 厳しい戦況を国民一丸となって乗り越えるべきだという責任感によって、自分の楽しさを求めるのは後回しにしようと思うこと。
- 2 戦時中の風潮に逆らわないようにしなければならぬという思いによって、身のうちからあふれる素直な感情を押し殺すこと。
- 3 世間の女学生が持つ常識と比べることによって、世界が美しい色に染まっているように感じていた昔の自分を恥ずかしく思うこと。
- 4 兵士たちの苦労を想像することによって、あまりに勝手な思いにかたよりすぎている自分を反省し、将来をあきらめること。

問五 —— 線④「それは」と同じ意味で用いられている「それは」をふくむ文としてもっとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 それはそうと、風邪かぜの具合はいかがですか。
- 2 これとそれは話がちがう。
- 3 それは美しい花嫁姿はなよめすがたでしたよ。
- 4 それはさておき本題に入りましょう。

問六 —— 線⑤「こともなげに」とありますが、この時の則子の様子としてもっとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 白い布地には縫い目の目立ってしまいう紅糸でも、何の問題もないと平気な様子。
- 2 人形に着せる服を作るだけなので、糸の色などどうでもよいと無関心な様子。
- 3 仕立て糸は白色と決まっているのに、戦時中で手に入らないためいら立つ様子。
- 4 仕立て糸には変な紅色でも、自分の腕前うでまえなら上手に作れると思えば上がる様子。

問七 —— 線⑥ 「舌の先で味わうようにそつと発音する」とは、どのような様子ですか。もっとも適当なものを次の1～4から一つ

選び、番号で答えなさい。

- 1 「デザイン」は世間でもはやされている流行の言葉なので、少し気取ってゆつくりと口にする様子。
- 2 「デザイン」は新鮮でおしゃれな雰囲気を持った言葉なので、もったいぶった言い回しで口にする様子。
- 3 「デザイン」は四人にとって特別な意味を持つ言葉なので、喜びを感じながら大切そうに口にする様子。
- 4 「デザイン」は子どもが使つてはいけない言葉なので、大人たちに聞こえないようにこっそり口にする様子。

問八 —— 線⑦ 「にべもなく言い放つ」とはどういう様子ですか。もっとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

い。

- 1 友人のためにあえて厳しいことを言う三美美に対して、やさしい口調ではあるが断固として反論する様子。
- 2 冗談めかしてはいるものの真実を伝える則子に対して、皮肉な口調で相手の気持ちも考えずに言う様子。
- 3 お国のために真面目に取り組むよう注意する則子に対して、からかうような口調で笑いながら伝える様子。
- 4 おどけながらも自分で縫うように諭す三美美に対して、愛想のない口調でなんの遠慮もなく言い切る様子。

問九

X

にあてはまる言葉を、文中から六字でぬき出しなさい。

問十 **A**～**C**はそれぞれ誰のことばですか。その組み合わせとしてもっとも適当なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- | | | | |
|---|--------------|--------------|-------------|
| 1 | A 則子 | B 三美美 | C 和美 |
| 2 | A 三美美 | B 則子 | C 詠子 |
| 3 | A 則子 | B 三美美 | C 詠子 |
| 4 | A 三美美 | B 則子 | C 和美 |

問十一 ———線⑧「胸の鼓動は動悸どうきではなく、ときめきだ」とありますが、本文全体からうかがえる「わたし」の「ときめき」とはどのような気持ちですか。四十字以上五十字以内で説明しなさい。

問十二 本文の内容にあてはまるものを次の1～6から二つ選び、番号で答えなさい。

- 1 詠子と和美の二人は嘉陽高女の同級生で、師範学校の受験も考えている。
- 2 則子は裁縫が上手でみんなから一目置かれているが、物まねも上手である。
- 3 和美は、なにげない三美美的一言があつて、この時から女優になろうと心に決めた。
- 4 三美美的視点で物語は進行しているが、ときおり詠子の視点からの情景も描かれている。
- 5 四人でブラウスを縫っている現在に、尋常小学校のころの思い出と、則子との幼いころの思い出がはさみこまれている。
- 6 黒江先生から教わったデザインを自分が作ることができた喜びを山口洋装店の生地的美しさを通して描いている。



次の1～6の——線のカタカナは漢字で書き、漢字は読みをひらがなで書きなさい。

- 1 会社の業績が下がってゲンエキになりそうだ。
- 2 税制改正を行うザイム省。
- 3 台風で破損した建物をシュウフクする。
- 4 戦地でのイリユウ品が返される。
- 5 調理実習でタマネギをキサむ。
- 6 祖母の家を訪ねる。

問題は以上です

